

# 在宅で重症心身障害者と共に生きる母親のアドバンス・ライフ・プランニングを構成する概念モデルの開発

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 倉田, 慶子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003375">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003375</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 37 号

在宅で重症心身障害者と共に生きる母親のアドバンス・ライフ・プランニングを構成する概念モデルの開発

(Development of a conceptual model for advanced life planning of mothers of patients with severe motor and intellectual disabilities living at home)

倉田 慶子 (くらた けいこ)

博士 (看護学)

#### 論文審査結果の要旨

本研究の目的は、在宅で重症心身障害者（以下、在宅重症者）と共に生きる母親の介護生活上の体験やニーズとその支援者のためのアドバンス・ライフ・プランニング（以下：ALP）の概念モデルを開発することである。研究 1 では「在宅重症者の親亡き後問題」の文献検討を行い、親が健康で対処ができる早期の段階から、今後を見据えた将来計画を検討するなど、親の不安の軽減を図るための支援体制の再構築が必要であることが示唆された。研究 2 では、在宅重症者の介護者（母）と彼らを支援する看護師・介護士等にインタビューを行った結果、抽出された 10 カテゴリーと、Meleis の移行理論をもとに「在宅重症者と共に生きる母親の ALP 概念モデル」案（以下、ALP 概念モデル）を作成した。研究 3 では、ALP 概念モデルの下位概念から作成された質問紙を用い、全国の生活介護事業所 202 ヶ所を通じて、在宅重症者と共に生活する 40 歳以上の母親を対象に調査を行った。381 部の回答を得て探索的因子分析した結果、ALP 概念モデルの 8 因子「介護生活上の覚悟と葛藤」「子どもの成長発達と生活の変化」「きょうだいについての苦悩と期待」「情報収集の難しさと仲間とのつながり」「専門家からの支え」「親としての責任と決意」「収入への不安」「替えの効かない役割り」が抽出され、さらに共分散構造分析を行い ALP 概念モデルの概念妥当性を検討した。

本研究は、今後も増加すると考えられる医療的ケア児とその母にも適用でき、在宅重症者と共に生きる母親のライフサイクルの移行を視野に入れた支援方法に示唆を与えることが期待できる研究である。

よって、本論文は博士（看護学）の学位を授与するに値するものと判定した。